

目次 Contents

02 クローズアップ遠野

05 ●特集
木を生かす

10 新型コロナウイルス インフォメーション
Information.

14 Photo Album 2021「春」特別号
遠野彩訪

16 総合カレンダー

18 学びのいずみ

20 インフォメーション

22 市からのお知らせ
がん検診/ウィッグ購入補助金/
マンホールカード配布 ほか

25 キラッと、遠野人。

26 遠野史歴訪
キラリ! 地域おこし協力隊

28 まちの話題
岩手食の匠に小向幸子さん(附馬牛
町)/「民話の里 遠野バス巡りの旅」
出発式/「こども本の森 遠野」お
知らせ ほか

30 みんなの広場

32 青春のトーク ほか

今月の表紙 Cover Story

植樹から約60年。植え替え適期を迎える私有林の全伐作業を行う遠野地方森林組合職員。チェーンソーを手に大木に切り口を入れ、倒す位置までコントロールするプロの技に感動しました。



ノッチ・アート遠野 検索

No.02

(協)ノッチ・アート遠野

理事長 立花功 従業員数/13人(男性8人、女性5人)
所在地/青笹町中沢8-1-6 問い合わせ/☎62-1070

木材で▷建具▷家具▷建築用造作材加工▷看板▷木工品——などの製作、取り付けを行う建具工場です。市民の皆さんの身近なものでは、市内小中学校の教室の扉などを作っています。現在は、こども本の森遠野の本棚作りを進めています。仕事の面白みは、仕事を覚え下積みを重ねることで、流れ作業ではなく、いちからモノ作りができるようになることだと感じています。



従業員の約6割が20・30代の職場です。デザイン企画室の若い女性従業員は、職人と連携して製品のデザインを考案。お客さまに提案し、発注いただいた製品を職人が作り出すことで、それぞれの力を生かしています。

話/業務部長 佐々木孝博さん

各種統計 Statistics

市の人口(3月末現在)
男性:12,481人(-31)
女性:13,415人(-34)
合計:25,896人(-65)
高齢化率:40.3%(+0.1)
世帯数:10,716世帯(+20)
※()内は前月比

交通事故発生件数(3月中)
物損26件 人身3件 死者0人

救急車出動回数(3月中) 74件

火災発生件数(3月中)
車両・建物・林野・その他 0件

広報広聴 Public Relations

ホームページのご案内
情報満載の市ホームページでは、広報遠野の最新号やバックナンバーもご覧いただけます。

市政なんでも相談箱のご案内
市への意見・提言、広報遠野への感想などは、主要施設に設置している「市政なんでも相談箱」(下図)への投書か市ホームページの「お問い合わせ」を活用してお寄せください。



木を生かす

特集

本市の面積のおよそ8割を占める森林。木を植え、育て、切り、加工して、木材にし、活用する。植樹後、私たちの暮らしに届くまでの期間は、60年ほどと言われています。

人口減少や木材価格の低迷などを背景に、管理の行き届かない森林が増えています。市内の森林資源が市内で循環すれば、地域経済活性化にもつながりますが、本市の木材のおよそ6割が市外に流れています。

市は本年3月、森林の持つ機能を保ち、地域経済活性化を図るため、「遠野市ふるさと森を育み木と暮らすまち条例」を制定しました。本号では、森林に目を向け、森林資源の活用を考えます。

川上からインタビュー

多くの人に感謝して次の世代へ



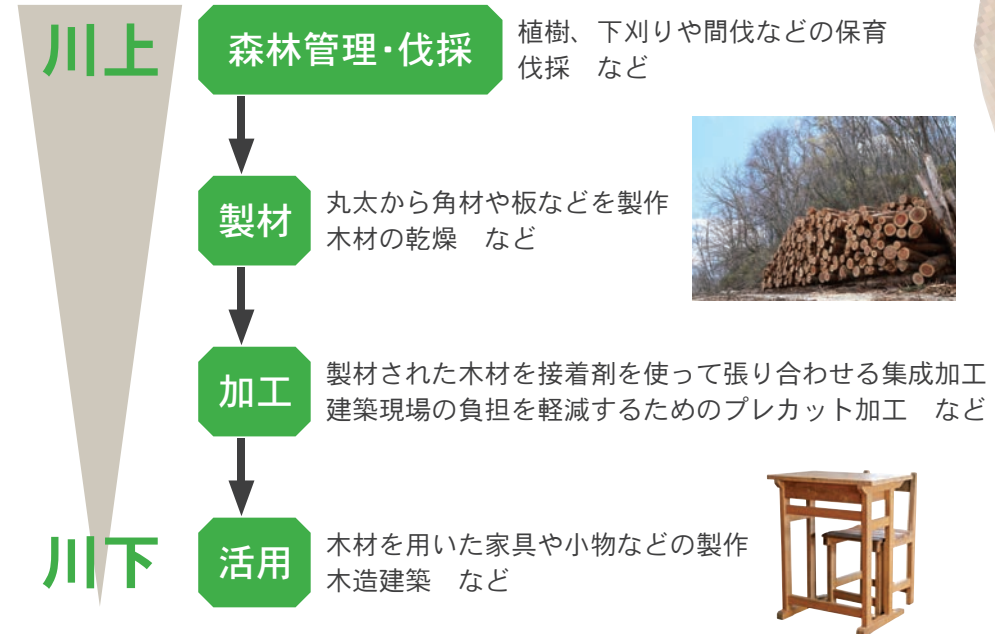
遠野地方森林組合 業務課長
ゆきひろ 福地 幸博さん

森林の持つ機能を十分に発揮させながら大きく良い木を育てるためには、下刈りや枝打ち、間伐などの適切な手入れが必要不可欠です。遠野の森林所有者は自ら森林管理の依頼をしてくれることもあり、間伐や再造林に前向きな人が多いです。民話にも残るように古くから山に親しみ、先祖からのつながりを大事にしているからではないかと思えます。一方、所有者の市外転出や高齢化などが原因で、自分や家族が持っている山への興味が薄れてしまったり、所在が分からなかったりする人も増えて、手入れが行き届かない場所もあります。そうした場所を調査

して所有者に働きかけるのも森林組合の役割です。木を植えてから最終的な伐採まではおよそ60年というサイクルで行われます。木材が使えるのは60年前に植樹した人がいて、長年管理をしてくれた人がいたからこそ。感謝の思いを忘れずに、次の世代につなげることが大切です。そうした思いを育むためにも、森林組合では木工団地内の企業などと協力しながら、小学生を中心に職場体験や森林見学、木工教室などを実施しています。多くの人が木材に親しみ、山に興味を持つきっかけとして、これらの取り組みを強化していきたいと考えています。

川上から川下
木材産業の流れ

植えて、育てて、切って、加工して、活用する。私たちの暮らしに届く“木材”木材産業の流れを紹介します。



木材の流通を川の流れに例え、森林管理や伐採は川上、木材の利活用は川下と呼ばれています。本市の林業の現状と課題、対策を探るため、川上から川下を担う2人に話を伺いました。

現状と課題

作る人も使う人も自慢できる木材活用を

川下からインタビュー

昔から木材を使用した建物は一般的ですが、戦後は都市部を中心に燃えない素材での建築が増えてきました。しかし、最近はまだ木造建築を進めていこうという風潮があります。研究が進み、燃えにくい木材ができるようになったのも要因の一つですが、SDGsの推進などによる、持続可能な環境問題対策としての期待が大きいです。木は成長過程で二酸化炭素を吸収し、木材として利用される時も炭素を中に貯蔵。大気中の二酸化炭素を減らし地球温暖化を抑制します。木造住宅は住む人にとってもメリットがあります。木の香りや感触によるリ

ラックス効果、長時間立ち仕事をしたとき鉄筋コンクリート造りの建物と比べて衝撃が少なく疲れにくいなどの効果があります。建築方法ごとのメリットや個人の好みがあるので、すべてを木材にすれば良いとは言いませんが、木材の良さをうまく生かしてバランス良く活用していく工夫がこれからの建築には求められると思います。作る人と使う人のどちらも自慢できるような木材活用が理想です。長い時間をかけてその自信や思いを積み重ね、素材・技術・商品のブランド化、遠野の木材関連業者の継続・発展につながれば良いと思います。



㈱リンデンバウム遠野 常務取締役
ひさし 立花 恒さん

遠野の木材産業の課題

木材価格の低迷などにより適切な管理が行われず、森林の多面的機能低下が懸念される
遠野産材の多くが市外で使われており、市内事業者間での相乗効果が生まれにくい

→ 解決に向け市は条例を制定

ふるさとの森条例で
木材産業の課題解決へ

本年3月、市は「遠野市ふるさとの森を育み木と暮らすまち条例」(以下、ふるさとの森条例)を制定。遠野産材の利用促進について定め、森林の持つ機能の持続的な発揮や地域経済活性化を目指します。本市の面積のおよそ8割を占める森林には、▽木材生産▽食料生産▽保水▽地球温暖化の抑制▽動植物の生息地 などの多面的機能があります。しかし、近年の人口減少や高齢化、長期的な木材価格の低迷などにより管理の行き届かない森林が増加し、森林の持つ多面的機能の低下が懸念されています。木材の地産地消が推奨される中で、本市の山林から伐採・搬出される木材(以下、遠野産材)のおよそ6割が市外に流出しているという課題もあります。



インタビュー



市農林課課長
奥寺 孝光

木材需要を産み出し
産業拡大や雇用確保につなげる

遠野の人たちは、昔から木を伐って利用して、植えるという作業を行い、山と共に生活してきました。それは人工林の多さにも表れており、市内私有林のうち人工林面積は約1万4千ヘクタールと一関市に次いで県内2番目の広さとなっています。ふるさとの森条例は、遠野の森林整備を推進し、豊富な森林資源の活用に向けて、伐採から住宅建築までを一連の流れとして取り組むために制定しました。まずは出口となる木材需要を生むことが重要です。条例に基づいた施策によって市や市民が遠野産材を積極的に活用することで遠野の木材の価値を高め、遠野の木材産業の拡大や雇用の確保などにつなげたいと考えています。その過程で森林整備を促し、森林の機能が高度に発揮される状態を保つことも大切な狙いの一つです。

森林資源活用へ！

継続事業

01 薪ストーブ購入助成事業



10万円以上の薪ストーブ購入費と設置工事費の5分の1相当を、市内で使える商品券で助成します。(上限10万円分)

02 緑化祭・森林愛護少年団支援



植樹などを行う緑化祭の開催や、各小学校の森林愛護少年団への支援を行います。

03 林地残材利用促進事業

バイオマス利用する木材のトラック運搬費を支援します。

04 森林資源航空計測事業

航空レーザーを活用して私有林の樹種や本数、材積などの資源調査を実施します。

05 森林集約化意向調査事業等

04で調査した結果をもとに手入れが遅れている森林を抽出して、間伐の意向調査や座談会を行います。

本年度の市の主な林業関連施策を紹介します。詳しくは、問い合わせください。

■問い合わせ 市農林課(☎62-2111内線422)

新規事業

01 木づかい事業

遠野の木材を使用して住宅などを建てる際に補助金を交付します。

①市民が活用できる補助

補助対象となる遠野産材使用量	1立方メートルあたりの補助金額	補助上限額
5立方メートル以上	2万5千円	100万円

②市内工務店などへの補助

①に該当する建物1件あたり3万円

02 木の温もりに触れる環境づくり事業



市内小中学校の木製机・椅子を作ります。

03 木製遊具制作展示実証事業

遠野産材を活用した木製遊具を市内商業施設などで展示し、新商品開発を進めます。

04 林業技術者育成事業

林業先進国や国内先進地の技術を市内事業者へ普及

05 森林づくり支援事業



再造林を支援するため、皆伐後の植栽や下刈りなど、再造林経費を市が支援します。

私有林間伐を後押し！

市と森林組合は、手入れが必要な森林の確認を進めています。間伐に必要な手続きは森林組合が代行。間伐を検討している人は相談ください。

■問い合わせ
遠野地方森林組合(☎62-4054)

間伐の収支例(1ヘクタールあたり)

収入	支出	収支
補助金 42万円	伐採経費 52万円	17万円
木材販売 27万円		

※立木の密度や樹種、販売市況により変化します

**遠野産材を活用して
木材産業に好循環を**

木材を活用することで新たに造林が行われ、木が成長すれば伐採・製材・加工・そして活用と、次々と循環していきます。森林としてあり続けることで、森の持つ機能は維持されます。木材産業の価値を高められれば、遠野産材の需要拡大にもつながります。

今ある木を私たちが生かすことが、60年後、あるいはもっと先の遠野産材を生かすこととなります。自分のため、次世代の人たちのために、遠野の木材活用を考えてみませんか。

**遠野産材活用を
応援します**

内閣府の調査(令和元年10月「森林と生活に関する世論調査」)によると、住宅の建設や購入で木造住宅を希望する人は約74%で、非木造住宅の約24%と比べて約3倍となっています。同調査では、約9割の人がさまざまな建物や製品に木材を利用すべきと回答しており、木材利用への意識の高さがうかがえます。

市は本年度、ふるさとの森条例に基づいて遠野産材の活用や関連事業を支援するため▽木づかい事業▽森林づくり支援事業▽薪ストーブ購入助成事業―など10の林業関連施策を予算化。遠野産材を活用したい市民や木材産業の従業者を応援します。

森林の持つ多面的機能維持と遠野産材の市内での利活用を目的に制定されたふるさとの森条例。条例に基づいて木材を循環させ、森林の機能を維持しながら遠野産材の需要拡大を目指します。

木材の循環

